【別添２】（様式例１）

平成２８年度　自己評価・学校関係者評価　報告書(教務)

Ⅰ 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号	５６

1 学校教育目標	**【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。** **【めざす学校像】　「地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校」** **(1)　進路実現に向けて、よく勉強する学校** **(2)　部活動や学校行事に真剣に取り組む学校** **(3)　端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校**
2 分掌における現状の分析	○幅広い進路実現に向けた教育課程の編成 ▲よりよい学習指導・評価方法の研究
3 分掌の抱える課題	授業改善による個に応じた指導と評価の充実
4 今年度の具体的な重点目標	(1)「学習意欲を喚起する授業」の推進 (2)「生徒の将来につながる授業」の推進 (3)「見通しをもった授業」の推進

年度目標			年度末（途中）評価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A･B･C･D	10 成果と課題	11 総合 評価
教育課程 学習指導	①「学習活動の評価の研究」を本年度の学習指導の全校統一テーマとし、生徒の学習意欲向上に努めます。 ② ①を推進するために、生徒一人一人に応じた学習活動を実践するとともに、教員間の研修を推進しながら、授業改善に取り組みます。 ③「目標を明確にした授業」、「学習方法(勉強の仕方)を教える授業」、「言語活動の活発な授業」を継続実践し、学習への取組を高める支援を推進します。	❶定期考査ごとの成績不振生徒の数が昨年度以上に減少する。	前期末における成績不振生徒数22名（昨年度前期末21名）うち３科目以上５名（昨年度７名）だった。後期中間における成績不振者８名（昨年度後期中間８名）うち３科目以上２名（昨年度２名）だった。	B	○年々生徒間の学力差が大きくなる中でも、基礎基本を定着させる指導の効果がみられる。 ▲学習指導や評価方法の継続的な研究と推進を行う。	A Ⓑ C D
		❷年間2回(5月と10月)の公開授業週間で、教員全員が①に関係する公開授業を実施・参観し、教科内で検討を行う。	公開授業週間（５、11月）に教員全員が授業を公開し、アクティブラーニングをテーマにした授業も行われた。授業後には各科で検討会も行われ、内容を全教員で共有した。	B	○授業見学について、昨年度以上に見学・研修することができた。 ▲③の継続実践は浸透しているが、①を意識した授業の更なる推進が必要である。	
		❸生徒の学習実態調査の結果や「生徒及び保護者に対するアンケート」の結果が向上する。	「個々に応じた学習指導」生徒70.5％保護者75.2％「習熟度別・小人数指導」生徒76.7％保護者84.2％と概ね高評価であった。	B	○個に応じた学習指導、習熟度別授業は浸透している。 ▲学習活動の評価の研究を継続的に行い、生徒に評価を意識させることにより生徒の力を伸ばす授業を目指す。	

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：平成２９年１月２７日

・学校評議員のご意見 「生徒及び保護者に対するアンケート」の2回目を実施し、1年間の取組がどのように評価されているか、1回目との変化を確認し、次年度につなげていくのが良いのではないか。	12　来年度に向けての改善方策案 指摘にもあるように、１年間を通しての取組を評価していただくことで、次年度への課題が明確になる。大々的なアンケートでなくとも、学習活動にポイントを絞った保護者へのアンケート、または生徒からの授業評価を行うことを実施したい。

【別添２】（様式例１）

平成２８年度　自己評価・学校関係者評価　報告書（生徒指導）

Ⅰ　自己評価

岐阜県立益田清風高等学校　学校番号　５６

1 学校教育目標	**【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。** **【めざす学校像】　「地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校」** **(1)　進路実現に向けて、よく勉強する学校** **(2)　部活動や学校行事に真剣に取り組む学校** **(3)　端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校**
2 分掌における現状の分析	○身だしなみについては、概ね良好になってきている ▲問題を未然に防止する予防的指導がうまくなされていない。
3 分掌の抱える課題	問題行動に対する予防的指導や事後指導の充実
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 学校規律、授業規律の確立 (2) 自他の人権や生命を尊重する意識の確立 (3) 問題行動の未然防止と事後指導の充実、身だしなみ指導の徹底

年度目標			年度末（途中）評価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A･B･C･D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒指導	①毎日の登下校指導、機会をとれえた身だしなみ指導、時間厳守、忘れ物、授業態度など、全職員が、職員の共通理解･共通行動のもと、生徒に指導します。 ② いじめ調査や生徒観察により、年間を通していじめの未然防止に努めます。また、情報モラル教育を充実させ、情報モラル意識を高めます。 ③ 見逃さない、見過ごさない、見放さない、見捨てないという姿勢で未然防止に努め、問題が起きた時は、事後指導まで粘り強く指導します。	❶落ち着いた授業環境が保たれ、校内だけでなく地域でも服装が乱れていない。地域の信頼が高まり、入学希望生徒が増加する。	全体的には落ち着いている。極端な着崩しは見られないが、シャツの第一ボタンをはずしているような生徒は見かけ、指導している。	B	○今年度から身だしなみ検査を昨年度より減らしたが、極端な乱れはなかった。 ▲新制服において、細かな着崩しが目につくようになってきた。教職員の統一した指導が曖昧になっており、教員全体で指導する体制をつくる必要がある。	A Ⓑ C D
		❷いじめ問題や情報モラル問題が発生しない。	情報モラル問題については、年々減少傾向にあるが、潜っている可能性がある。 いじめ問題については、大きな問題になる事態は起きていないが、人間関係のトラブルは起きている。	B	○情報モラルについては、外部講師による講話や日頃の指導の効果があがっている。 ▲いじめ問題については、日頃からアンテナを高くし、早期発見、早期対応に努めたい。	
		❸問題行動の件数が減少する。同じ生徒が繰り返し問題行動を起こさない。	気になる生徒への声かけや注意喚起などを積極的に行ったところ、今年度の問題行動の件数は、かなり減少した。 問題行動に代わって、不登校生徒は増加している。	B	○家庭反省をするような問題行動は、かなり減少した。 ▲たまたま今年度の問題行動は減少した可能性もある。中には繰り返し問題を起こす生徒がいるので、粘り強く事後指導をしていく必要がある。	

Ⅱ　学校関係者評価　　実施年月日：平成２９年１月２７日

・学校評議員のご意見
情報モラル指導は専門業者に協力を依頼する方法もある。
下呂市唯一の高校なので頑張ってほしい。

12　来年度に向けての改善方策案

・職員の共通理解、共通行動で指導にあたる体制づくり
・公共の場における、マナー指導の充実を図る
・いじめ方針等の見直し

【別添２】（様式例１）

平成２８年度　自己評価・学校関係者評価　報告書（進路）

Ⅰ 自己評価　　岐阜県立益田清風高等学校　　学校番号　５６

１　学　校　教　育　目　標	**【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。** **【めざす学校像】　「地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校」** **(1) 進路実現に向けて、よく勉強する学校** **(2) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校** **(3) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校**
２　分掌における現状の分析	○地元企業ガイダンスなど地域と連携した取組による地元就職者数の確保（50%）と就職率100%の達成 学部学科ガイダンスなどの進路行事による生徒の進学意識の向上 ▲３年間を見通したキャリア教育
３　分掌の抱える課題	学科別・コース別と多様化する進路指導におけるキャリア教育の充実
４　今年度の具体的な重点目標	(1) キャリア教育の推進 (2)希望に応じた進路指導の充実 (3) 地域･保護者と連携した指導体制

年度目標			年度末（途中）評価			
５　評価項目領域・分野	６　重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	７　達成度の判断・判定基準あるいは評価指標	８　取組状況・実践内容評価項目の達成状況等	９　評価 A･B･C･D	10　成果と課題	11 総合評価
進路指導	①　キャリアガイダンスや上級学校による学部・学科説明会、地元企業を中心とする職場体験学習を実施します。 ②　外部模試の結果を踏まえて、放課後の就職・公務員補習や進学補習、土曜講座、休暇中の特別補習、学習合宿を実施し、弱点強化を図ります。 ③　保護者対象進路説明会や地元企業による企業説明会、保護者による面接練習を実施します。	❶ アンケートを用いての学校評議委員、保護者、生徒による進路部門の評価が向上する。 ❷ 外部模試における客観的評価が向上する。具体的数値目標が達成される。 ❸ 行事に招く外部講師や保護者による評価が向上する。	①　種々のガイダンスを計画通りに行い、進路について真剣に考える姿勢が身についた。２年普通科では夏季休業中に大学のオープンキャンパスに参加することを課題とし、進学意欲が高まった。 ②　補習等により学習習慣が定着し、学力向上や弱点強化を図ることができた。数値目標もある程度達成できている。 ③　地元企業の協力や就職補習により、就職内定率100%を達成できた。	A B B	２年次からの就職･公務員補習により基礎学力が向上し、民間企業内定率100%を達成できたが、公務員については合格者が希望者の半数程度であり、今後取組の強化を図る必要がある。 各行事等により進路意識は向上したが、それを日々の学習にどうつなげるかが今後の課題でもある。	A (B) C D

Ⅱ 学校関係者評価　　実施年月日：平成２９年１月２７日

＜学校評議員のご意見＞

・進路については毎年レベルが上がっている。もっと自信を持ってもよい。

・下位層に手をかけがちになるが、上位層への手厚いケアをお願いしたい。

・進路決定に係わる取組を１年次からもっと仕掛けてもよいのではないか。卒業生を呼んで話してもらうもよし。「進路だより」を楽しみにしている。

・地元で就職して元気よく誠実に頑張っている卒業生が多く、彼らの声を在校生に聞かせてあげてほしい。そして、若者の他地区への流出を防ぎ、地元就職者の増加を図り、人口減少の歯止めに貢献してほしい。

12来年度に向けての改善方策案

・上位層へのケアについては、補習や特編授業等の充実とともに、受験先の十分な検討も加えて、学校全体でバックアップする体制の確立を目指す。

・１年次からのキャリア教育については、従来の進路適性検査や学部・学科ガイダンスに加えて、先輩の声や卒業生からのアドバイス等も取り入れ、早くからの進路意識の確立を目指す。「進路だより」の定期的な発行も努力目標とする。

・地元就職については、高卒者のみならず、一度進学してＵターン就職している卒業生の把握を下呂市と協力して行い、活躍の様子や先輩の声を在校生に紹介していきたいと考えている。

【別添２】（様式例１）

平成２８年度　自己評価・学校関係者評価　報告書（特別活動）

Ⅰ　自己評価

岐阜県立益田清風高等学校　　学校番号　５６

１　学　校　教　育　目　標	**【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。** **【めざす学校像】　「地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校」** **(1)　進路実現に向けて、よく勉強する学校** **(2)　部活動や学校行事に真剣に取り組む学校** **(3)　端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校**
２　分掌における現状の分析	○活発な生徒会活動がなされ、学校発展のために貢献し、よく努力している。また、地域と協同し、ボランティア活動などを、定期的に行っている。 ▲生徒会活動の活動計画や報告を地域、生徒に知ってもらうことが必要だと感じる。
３　分掌の抱える課題	生徒が自発的に活動する学校づくり
４　今年度の具体的な重点目標	(1)　生徒会活動の活性化 (2)　ボランティア活動を通して地域に貢献 (3)　部活動、学校行事に真剣に取り組む特別活動の充実

年度目標			年度末（途中）評価			
５　評価項目 領域・分野	６　重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	７　達成度の判断・判定基準あるいは評価指標	８　取組状況・実践内容評価項目の達成状況等	９　評価 A･B･C･D	10　成果と課題	11 総合評価
特別活動	①　三大学校行事(球技大会、文化祭、三送会)への取組を通して、生徒が自発的、自治的に考えて行動できるように支援します。また、地域との連携を意識して活動します。 ②　生徒会執行部を中心としたMSリーダーズ活動、ボランティア活動への自発的な参加を促し、地域社会の一員としての自覚を深め、地域社会と積極的に関わろうとする姿勢、地域に貢献する心を育てます。 ③　部活動への自主的な取組を通して、生徒が自ら成長できる機会と実感が得られるよう支援します。地域との関わりを意識して活動します。	❶　行事の取組が生徒主体であり、自ら考える姿勢、絶えず変革しようとする姿勢が見られる。	・生徒会が活動の牽引役となり、より活動的にするための努力をしてきた。また、学校全体を見渡し、自校愛の持てるよう、常に計画と反省点を踏まえて活動している。	B	○生徒主体で、行事の計画・運営ができ、充実した活動であった。 ▲意思疎通を図り、意見を検討し反映させることが大切である。	A (B) C D
		❷　地域社会の一員としての自覚が生徒に見られ、地域社会と積極的に関わり貢献する意識を持ち、実際の行動に移せている。	・地域社会の一員という自覚を持ち、地域で貢献できる活動を行っている、特に生徒会環境厚生課を中心に、施設訪問、暑中見舞、年賀状、募金活動などの福祉活動と連携した活動をしている。	B	○地域の方と共に協力しながらできる活動を行っている。 ▲毎年、継続はしているが、新たな取組や、反省・再考が必要である。	
		❸　部活動への取組が生徒主体であり、部活動を通して成長しようとする姿勢が見られる。	・生徒が主体的となり、部活動を活性化するために、積極的に参加し、活動を行っている。また、部活動を通じて心身の鍛錬し、人間的にも大きく成長している。	A	○部活動の活性化が、学校活性化につながり、人間的に成長している。 ▲部活動と勉学の両立が困難な生徒もいる。	

Ⅱ　学校関係者評価　　実施年月日：平成２９年１月２７日

・学校評議員のご意見
　成果発表会は、とても良い試みであり、いろいろな学科や部活動の発表を聞くことができて良かったし、またどれも立派な発表だった。大きく成長した生徒の姿を見られて嬉しかった。

12　来年度に向けての改善方策案

・地域貢献のための活動は、学校の年間計画を基に考査期間などを考慮して計画する。
・行事の計画にあたっては、全校体制が作れるように働きかける。

【別添２】（様式例１）

平成２８年度　自己評価・学校関係者評価　報告書（保健安全）

Ⅰ　自己評価

岐阜県立益田清風高等学校　学校番号　５６

1 学校教育目標	【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。 【めざす学校像】　「地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校」 (1) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (2) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (3) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校
2 分掌における現状の分析	○防災教育を行ったうえでの避難訓練の実施による危機意識の高揚と非常時対応への取組が向上した。 ▲感染症予防・校内美化についての現状分析を行い、実状に即した対応・取組が必要である。
3 分掌の抱える課題	生活の全般において、命・健康と安全に対しての根本的な意識づけをより意図的におこなう積極的な活動。
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 心身の健康についての知識と実践する力の養成 (2)「生命を守る」訓練、「助け合う」行動に繋がる教育の推進 (3) 安全面等での地域との連携

年度目標			年度末（途中）評価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A･B･C･D	10 成果と課題	11 総合 評価
保健安全	① 自らの身体と精神の健康を考え、生活を見直す保健指導、感染症予防のための保健指導に取り組みます。 ② 多様な災害に対し、自らの生命を守り、被災時において適切な判断･行動のできる生徒の教育に取り組みます。 ③ 地域の環境美化に貢献する学校づくり、地域の避難拠点としての学校づくりに取り組みます。	❶心身の健康に関わる諸調査を実施して判断する。	① 保健室に来室する生徒の訴えを分析し、その対応について連携を図った。	B	○教育相談との連携、専門医との連携・協力ができた。	A Ⓑ C D
		❷学校の体制づくり、訓練または教科における指導などを総括的に評価する。	②避難訓練の実施、教科における防災マップの学習、２年生における防災教育の推進をおこなった。	B	○防災に対する日常的な意識は高まってきている ▲地震に対する意識向上のため、シェイクアウト訓練など日常的に防災意識を高める工夫が必要である。	
		❸具体的な取組を地域に発信し、自己評価･外部評価を参考に判断する。	③昨年度に引き続き、ＭＳリーダーズや部活動の協力により、地域の環境美化活動をおこなった。避難拠点としての校内整備を進めつつある。	B	▲地域の学校として将来の地域の担い手となる意識づくりを積極的におこなう活動を模索していきたい。	

Ⅱ　学校関係者評価　　実施年月日：平成２９年１月２７日

・学校評議員のご意見 生徒の防災意識の高揚と同時に、有事の際に地域における避難場所として近隣学校との連携と具体的対策を検討していくべきである。 また、校内美化により生徒の気持ちが変わってくるので、常に心掛けてほしい。	12　来年度に向けての改善方策案 ・防災週間にシェイクアウト訓練を実施する。 ・地域の行政を含めて連携を取り、避難場所としての役割・整備を進める。 ・ホームルーム担任と掃除担当者との連携を密にして全校清掃により校内美化を徹底する。